

WEEKLY SIGNAL

平成27年12月18日(金) 1304号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	12/21(月)	12/22(火)	12/23(水)	12/24(木)	12/25(金)
無担保O/N	0.030% ~ 0.125%				
銀行券	△ 3,700	△ 4,000		△ 5,000	△ 6,000
財政他	+ 62,400	△ 2,000		+ 2,000	トシ
資金需給	余 58,700	不 6,000		不 3,000	不 6,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M・1Y) 国債発行(5、10、20、30年) 国債償還(5、10、変動15年)			交付税特会借入・償還	
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,300 CP等買入 △ 1,100 社債等買入 △ 100	共通担保(全店) △ 200			被災地支援 △ 35
オペスタート	共通担保(全店) + 800	共通担保(全店) + 1,100	休日	社債等買入 + 1,300	被災地支援 + 17
(日本)	金融経済月報(12月) 月例経済報告(12月) BIS国際資金取引統計および 国際与信統計の 日本分集計結果(2015年9月末) 全産業活動指数(10月)	日銀営業旬報 (12月20日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額		決定会合議事要旨 (11月18・19日分) 黒田日銀総裁、講演 (日本経団連審議委員会)	消費者物価指数(CPI全国11月 東京都区部12月) エネルギーと生鮮食品を除く 消費者物価指数(11月速報) 完全失業率(11月) 家計調査(11月) 有効求人倍率(11月) 企業向けサービス価格指数(11月) 住宅着工統計(11月)
(海外)	欧 ユーロ圏消費者信頼感 (12月、速報値)	米 7-9月GDP確定値 米 FHFA住宅価格指数(10月) 米 中古住宅販売件数(11月)	米 MBA住宅ローン申請指数 (18日終了週) 米 個人消費支出・所得(11月) 米 耐久財受注(11月、速報値) 米 新築住宅販売件数(11月) 米 ミシガン大学消費者 マインド指数(12月、確定値)	米 新規失業保険申請件数 (19日終了週)	米市場は休場

＜インターバンク市場＞

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.050 ~ 0.120
SPOT 2M	0.110 ~ 0.155
SPOT 3M	0.117 ~ 0.160
SPOT 6M	0.120 ~ 0.170

＜オープン市場＞

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.010 ~ 0.050
TDB 3M	△0.002 ~ 0.001
現先(on/1w)	0.050 ~ 0.100

＜インターバンク＞

当座預金残高は週初、239兆4,600億円であった。その後は15日の年金定時払いや、短国・国債買入を主因に増加し、週末は247兆9,800億円を越えた。無担保コールON物の加重平均金利は、概ね0.075～0.076%のレンジで推移したが、17日は朝方から試取りの動きが見られ、0.12%超で大きく出合ったため、加重平均金利は0.089%へと上昇した。ターム物は、1W～1M物で0.11%台後半の出合となった。16日、FOMCはFF金利誘導目標を0～0.25%から0.25～0.50%に引き上げることを決定した。FOMC参加者による2016年末の政策金利見直しにおける予想中心値は1.375%と前回9月と横ばいであった。18日、日銀は、金融政策決定会合の結果、国債買入の平均残存期間の拡大(本年度中は7～10年程度、来年から7～12年程度)を決定した他、「量的・質的金融緩和」を補完するための諸処置の導入として、新たに年間約3,000億円のETF買入枠の設定や、日本銀行適格担保の拡充などを決定した。来週の予定は、黒田日銀総裁講演(24日)、CPI(25日)、海外では、米国7-9月GDP確定値(22日)などが挙げられる。

＜CP＞

今週の入札発行額は約9,000億円で、期落ち額約8,300億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.060%台前半～0.070%台後半を中心に推移した。現先レートの中心は、0.050%～0.100%程度で推移した。来週の期落ち額は約11,100億円程度となっている。

＜TDB＞

17日に国庫短期証券3M第578回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.0111%(前回債△0.0221%)、平均落札レートは△0.0242%(前回債△0.0353%)と前回債から利回りは上昇した。セカンダリーは3Mで△0.01%近辺の出合い。6M、1Yは△0.09%近辺の地合いとなった。来週24日に3Mの入札が行われる予定である。

＜レポ＞

足許GCは、先週末のT/Nが上昇した流れを受け、週初0.05%～0.06%近辺の出合いから始まった。週中は0.03%～0.04%に低下したが、国債と短国の大量発行日となる21日受渡では、S/Nでは0.07%～0.08%まで上昇しT/Nでは0.09%を超える出合いも見られた。週末にかけても依然として資金調達意欲が強く、0.08%を下回ることなく越えた。SCは10年327回債が先週対比でビッドが増加、ターム物の引き合いも多く見られた。他では5年債は118・120回債、10年債は336・338・340回債、20年債は150・152・154回債、30年債は46・47回債に引き合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。